



自然が一番の先生

「森のようちえん」をご存知だろうか。森や海や里山等、そして公園も含めた自然環境の中で、幼稚園や保育園、託児所等の子育てを行うものである。森のようちえんの発祥はデンマークとされ、ヨーロッパでは広く行われているようだ▼日本でも野外保育や里山保育と言われるものが存在してきたが、二〇〇〇年以降に森のようちえんとして定着してきたとされる。数人の親で運営する自主保育型も含めると、全国で一千を超える森のようちえんがあるとされ、特にこの一〇年ほどの間に急増している。全国ネットワークも設けられ、都道府県のほとんどに森のようちえんはある▼森のようちえんの運営主体は区々であり、その運営・展開方法も異なるが、多くは朝九時ごろに集合し、午後二時ごろまで、自然を相手に園児はやりたいことをして過ごす。保育者はその様子を見守るだけで、手出しや口出しは極力控える。あくまで自然によつて園児の好奇心や感性が引き出されることを基本にしており、自ずと自立心や協調性が養われるとされる▼筆者の自宅近くに都内では最大面積を有する小金井公園があるが、ここをいくつかの森のようちえんが活動のフィールドにしている。その一つに通う園児とおかあさんたち何組かが、自宅を開放しての集まりに足を運んでくるようになってきた。よく日に焼けているだけでなく、おだやかで、子ども同士で上手に遊べる子が多いように感じる。森のようちえんの登場で、知識教育に偏重してきた日本の学校教育が、体験重視に変わっていくことを期待したい。

(土着菌)